

新潟県

平成元年

公民館月報

6月
第436号

シリーズ 生涯学習の推進と公民館(1)

生涯学習の推進体制



末松正樹

「ボン・ボワイヤーージュ」

1962年作

227.5×181.5cm

油彩キャンバス
新潟県美術博物館所蔵

青・白、黄、赤。明るい小さな色面が交錯して画面に快いリズムとハーモニーが生まれる。「ボン・ボワイヤーージュ」とは旅人を送る祝福の言葉。私たちを一時、未知の世界へと誘ってくれるようなまばゆい光に満ちた作品である。末松正樹（1908～ ）は新発田市出身の洋画家。豊潤な色彩による抽象絵画を一貫して描き続けている。

第 2 回 理 事 会 開 催

表 彰 選 考 終 了

優 良 公 民 館 は 一 館 の み 永 年 勤 続 者 は 十 七 名 に

五月三十日、午後一時から新潟市中央公民館において、今年度第二回理事会が開催された。

全理事出席のもとに、定刻に開会。今理事会の主要審議事項は、第40回県公民館大会における表彰候補の優良公民館ならびに永年勤続の公民館運営審議委員及び非常勤公民館職員

の表彰選考にあつた。

真剣な選考スナップ

先に5月20日を書類提出期限として市町村公民館から提出のあった優良公民館候補1館、永年勤続者表彰候補17名の推薦書類に基づいて選考の結果、それぞれが優れた実績を保持していることが認められ、全てを表彰することに決定した。(表1を参照)

今年度の特色は、優良公民館表彰が昨年に引き続いて一館のみということであつた。これは二年続いている偶然

なのか、近年の傾向と考えるべきなのか判断に苦しむ結果である。いずれにしても、施設・事業活動ともに優れている公民館は県下に多いと思われるので、来年度以降に期待したい。

また、永年勤続者の17名のうちわけは、公運審委員10名、館長6名、職員1名(但し、公運審委員と館長の両方に就任したことのある人もいたが、年数の多い方へ割り振った。)館長職員の受賞者が少ないのが特色といえよう。

選考会終了後に若干時間の意見交換を行った。その中に、「表彰基準の永年勤続15年は長すぎはしないか」という問題提起がなされたが、大方の意見は、「受賞対象者が例年15人前後はいること、短縮すると対象者が増え、選考が困難になる」濫賞はさけるべき」等の意見が多く、時期尚早の結論で落ちついた。

〈表1〉優良公民館表彰

柏崎市 大淵地区公民館

永年勤続者表彰者一覧

氏名	所属公民館
1 中田 幸男	新潟市石山地区公民館
2 吉田八曾八	長岡市山通公民館
3 渡辺 謙也	長岡市 大森公民館
4 佐藤 篤	三条市中央公民館
5 竹石 慶期	三条市大崎公民館
6 松沢 欣一	十日町市公民館
7 伊藤 俊次郎	糸魚川市上早川公民館
8 戸田正	新井市公民館
9 斎藤 重定	白根市新飯田地区公民館
10 遠藤 道夫	白根市白井地区公民館
11 木村敬二郎	中蒲小須戸町中央公民館
12 河内与三	中蒲小須戸町中央公民館
13 田村清次郎	中蒲横越村公民館
14 中野 ヨシ	西蒲巻町公民館
15 島山 ミツ子	西蒲西川町公民館
16 山本チヨ	西蒲西川町公民館
17 脇川 正昭	岩船栗島浦村中央公民館

本当か? さらに進んだ 地域住民意識の希薄化

少々旧聞になるが、読売新聞の4月17日12版に『薄れた地域住民意識』という大見出しで、国民意識定期調査の集計結果が掲載されていた。

この調査は、全国規模で有権者三千人を拠地点、層化多段無作為抽出法によつたものだといふ。本県のみの調査ではいかがな結果になるのだろうか。

公民館関係者が、学級・講座等の学習活動の中で、あるいはまじぐるみのイベントとして、地域意識・古里意識を高める活動に取り組んでいるわけだが、そして、これは本県のみのものであるまいと思ふのだが、信じ難い調査結果であるとともに、公民館関係者への問題を提起している資料であるように思われる。



辛口

いま、海外で日本と日本人への関心が高まっています。日本が国際社会の中で、重要な役割を果たしていることの表われです。社会教育活動の大きな指標としても、国際

のが現実です。学校教育の中でも、従来の外国語教育を見直すために、外国青年を招致する自治体が多くなっており、当地方にも何人かの若者が来

海外との交流を

青海町々長 小野正毅

もう一歩進んで、住民とわけて供進を海外へ派遣し、その国で、その国の人達と交流することができないかと考えています。外国での体験を通して、日本

と日本人について見直したり、考えたりすることができれば、本当の意味での国際化教育になると思います。その意味から公民館は、外国との交流の窓口としての役割を持つと共に、外国語教育は、もちろん、外国の文化、習慣、生活、芸術などについての学習の場、情報提供の場となる必要があるのでないでしょうか。

(県公民館振興市町村長連盟副会長)

平成元年度 新潟県公民館連合会役員評議員名簿

平成元年6月1日現在

郡市名	役職名	氏名	所属公民館
下越	会長	木下 浩一	新潟市中央公民館
		遠藤 謙二	新潟市中央公民館
	副会長	幸助 善善	新潟市中央公民館
		高橋 宏	新潟市中央公民館
	理事	小藤 静利	新潟市中央公民館
		加藤 文雄	新潟市中央公民館
	監理	野原 隆志	新潟市中央公民館
		五十 英一	新潟市中央公民館
	理事	山下 雄一	新潟市中央公民館
		佐藤 晴久	新潟市中央公民館
	理事	藤本 久俊	新潟市中央公民館
		藤本 久俊	新潟市中央公民館
中越	副会長	平沢 春浩	長岡市中央公民館
		川村 昭治	長岡市中央公民館
	理事	千原 朝二	三条市中央公民館
		田中 隆二	三条市中央公民館
	理事	山根 英夫	小千谷市中央公民館
		野村 敏夫	小千谷市中央公民館
	理事	佐藤 三男	十日町市中央公民館
		小崎 昇	十日町市中央公民館
	理事	山崎 竜	見附市中央公民館
		星野 衛	見附市中央公民館
	理事	本田 一郎	湯沢市中央公民館
		保坂 甲子	湯沢市中央公民館
理事	藤田 雄一	川西町中央公民館	
	藤田 雄一	川西町中央公民館	
上越	副会長	藤本 昭雄	上越市立公民館
		寺崎 直美	上越市立公民館
理事	阿部 孝	新井市中央公民館	
	青柳 義行	新井市中央公民館	
理事	藤利 義行	妙高村中央公民館	
	藤利 義行	妙高村中央公民館	

自ら燃えずして

他は燃やせない

ことしの6月10日は、昭和24年の社会教育法施行から数えて40周年にあたり、県公民館連絡協議会の安沢純正元会長を代表とする実行委員会により「草創期の公民館を語る会」が新潟市で開かれる。

この会の準備のための中越地区有志懇談会が、昨年の暮に長岡市で開かれた。久しぶりになつかしい顔が揃って、往時を偲ぶ思い出話に志気大いに高まり、本番の前奏曲にふさわしい会となった。

続公民館日記(2)

長い間の公民館勤務をとおして思うことは、公民館職員としての大切な条件は「志気」ではないかということである。

「自ら燃えずして他は燃やせない。」
 社会教育法施行40周年にあたり、県下の若い公民館職員諸君に、心をこめてこの言葉を贈りたい。

「健全を念じてやみません。」
 (柏崎市中央公民館 元事務長・徳間助夫)

「かかげがないのだから、人生を、何よりも大切に人間らしく生きるためには、生涯にわたって学び続けることこそ大切なのだ」という職員の、身体中からじみ出る燃えるようなものこそ、住民の自発的な学習意欲を燃え立たせるのではないだろうか。

生涯教育から生涯学習推進へ

一九六五年(昭和四〇年)にユネスコの成人教育推進国際委員会で生涯教育論が登場し、生涯教育の考え方は世界にひろまった。わが国においても日本ユネスコ国内委員会が「社会教育の新しい方向」と題してこの会議の模様を報告し、昭和四三年には文部大臣が社会教育審議会に諮問を行い、四六年四月に「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」が答申された。この答申は生涯教育の観点に立つて社会教育のあり方を提言したものととして社会教育関係者はもとよりと

推進と公民館(1)

推進体制



教授 吉川 弘

して多くの人々の話題とされた。しかし、当時「生涯教育」という言葉は耳新し過ぎた故もあってか、教育の理念、考え方としては理解されても行政施策として直ちに各地でとりあげられるというには至らなかった。その後、生涯教育の施策化を図るため、文部大臣は五二年、中央教育審議会に諮問を行った。そして五六年に答申されたのが「生涯教育について」である。答申は我が国における生涯教育の意義として「人間が生涯を通じて資質・能力を伸ばし、主体的な成長・発達を続けていく上で、教育は重要な役割を担っている。今日、人々が自己の充実に生活の向上のため、その自発的意欲に基づき、必要に応じ自己に適した手段・方法を自ら選んで行う学習が生涯学習であり、この生涯学習のために社会の様々な教育機能を相互の関連性を考慮しつつ、総合的に整備・充実しようとするのが生涯教育である」と述べ、成人するまでの教育、成人期の教育、高齢期の教育それぞれについて内容や方法を提言した。この答申を受けて、国は社会教育施策の中心に生涯教育推進をすすめるようになり、地方公共団体の多

くが生涯教育を教育行政の基本方針や重点目標にとりあげるようになる(詳しくは日本生涯教育学会「都道府県の生涯教育」、「市町村の生涯教育」を参照されたい)。

ところで、昭和五九年、学校教育の荒廃を救うため、時の首相は直属の教育改革に関する諮問機関として臨時教育審議会を設置した。臨教審は審議の結果として翌六〇年第一次答申を出し、教育改革の基本方向として①個性重視の原則、②基礎・基本の重視、③創造性・考える力・表現力の育成、④選択の機会の拡大、⑤教育環境の人間化、⑥生涯学習体系への移行、⑦国際化への対応、⑧情報化への対応をうちだした。これが第二次答申になると「生涯学習体系への移行」が前面におどりでてくる。そして第四次(最終)答申では教育改革の視点は①個性重視の原則、②生涯学習体系への移行、③変化への対応の三点にしぼられるのである。答申は、「これからの学習は、学校教育の基盤の上に各人の自発的意欲に基づき、必要に応じて、自己に敵した手段・方法を自らの責任において自由に選択し、生涯を通じて行われるべきものである」と述べ、生涯学習の必要を説いている。そして、そのような教育

体系への総合的再編成を提言している。この答申を受けて、昭和六三年七月文部省は機構改革を行い、社会教育局を廃し、生涯学習局を設置し、筆頭局とした。

生涯学習社会は地域づくりから

この生涯学習の推進であるが、まずは地域に生涯学習社会を実現することからはじめられねばなるまい。生涯学習社会とは臨教審答申にしばしば登場する概念である。それは「生涯に通ずる学習の機会が用意されている社会」であり、「そうして学んだことが適正に評価される社会」である。そして、そのためには「生涯学習社会にふさわし

中央公民館を学習サービス・センターに

新潟県では、中教審から「生涯教育について」が答申されたその翌年、新潟県生涯教育推進会議を発足させている。この生涯教育推進会議が昭和六〇年三月発表した「新潟県生涯教育推進基本構想」によれば「生涯教育(この時には生涯教育という言葉のほらが一般的であった)を推進するに当たっては、国・県・市町村が民間、団体の動向を踏まえつつそれぞれの役割を分担し、総合的に展開する必要がある。中でも地域住民と直接的な関係をもつ市町村にあっては、

たことはよく知られていることである。昭和四〇年代に発した生涯教育は、ここに生涯学習を推進するものとして施策化されるに至ったのである。

い、本格的な学習基盤を形成し、地域特性を生かした魅力ある、活力ある地域づくりを進める必要がある。(第三次答申)、即ち「地方が主体性を発揮しながら、まち全体で生涯学習に取り組む体制の整備」(同)が肝要なのである。いってみれば、生涯学習社会は地域づくりからということになる。

推進の第一次的な役割を果たすものであって、市町村のもつ自然的環境、社会的・文化的環境を配慮し、独自の具体的な施策の展開が必要」と述べている。住民と直接的な関係をもつ市町村が第一次的な役割になうということは当然のことである。

ところで、生涯学習社会の要件として「生涯を通じる学習の機会が用意されている」ことがあげられる。これら学習の機会とは様々な教育的機能を有する施設によって提供される。従来からある地域の教育的機能を有す

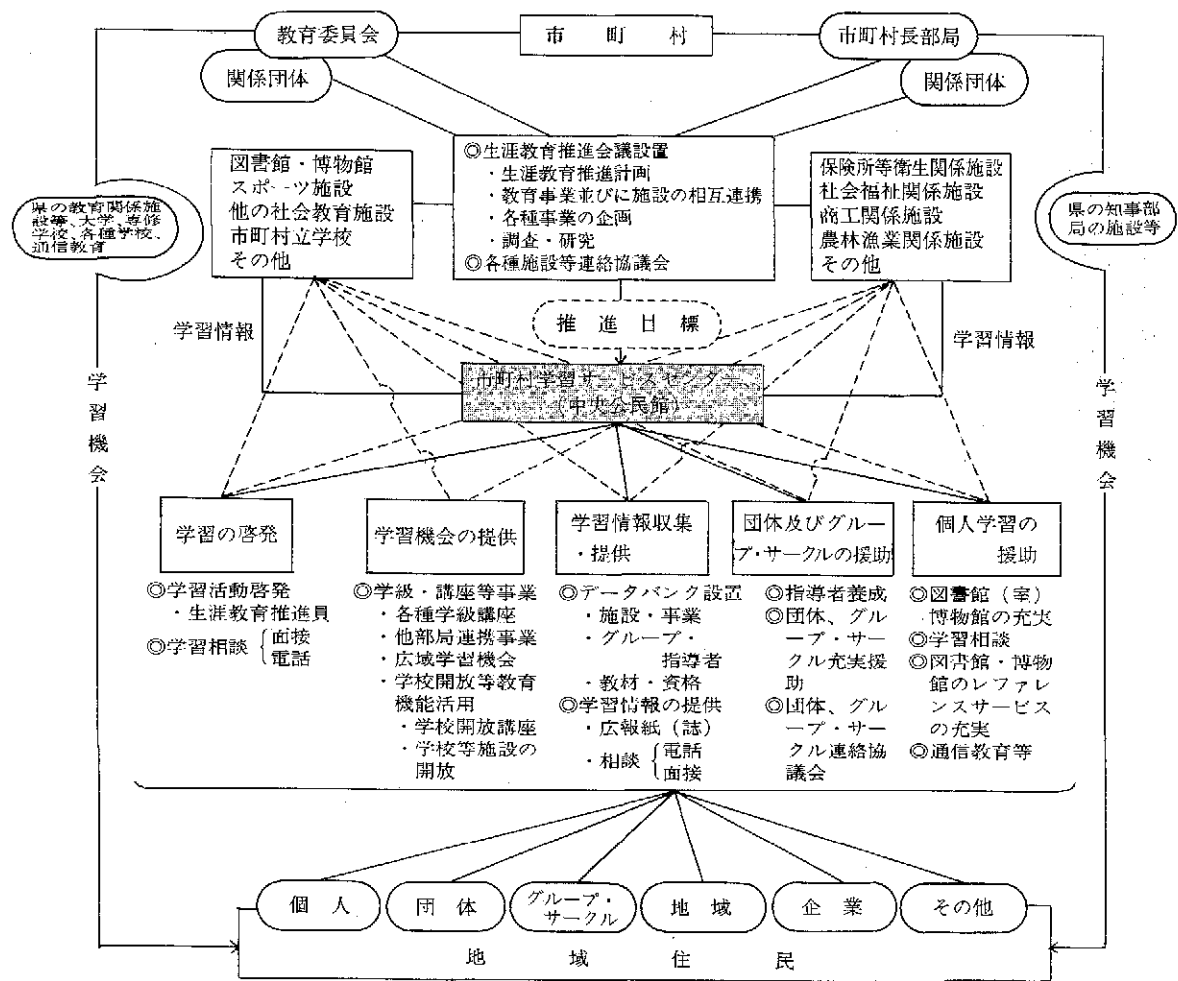
シリーズ 生涯学習の 生涯学習の

新潟大学

る施設をあげると、教育委員会
所管の学校をはじめとする公民
館、図書館、博物館、文化会館、
屋内・外の運動施設、青少年教
育施設などのほか、児童館、保
育所、勤労青少年ホーム、市民
会館、福祉センター、老人憩い
の家、農林漁業研修施設、商工
関係研修施設、生活改善セン
ター、消費生活センター、創作
館、コミュニケーションセンター等々
がある。これまではこれらの施
設がそれぞれ独自に教育機能を
発揮してきた。これからは、こ
れらの施設が連携することが必
要である。連携することによっ
て総合化され、体系化され、人々
にとって生涯を通じいつでも、

どこでも学べる機会と場を提供
できるようになるからである。
そして、そのような連携を図る
にはどうしてもその中心となる
存在が必要である。これを「基
本構想」では学習サービスセン
ターと呼んでいる。学習サービ
スセンターは、自ら学習の啓発、
学習機会の提供、学習情報の提
供、団体、グループ・サークル
の援助、個人学習の援助を行う
が、併せて、地域内施設の連携
の媒介役として①生涯学習に関
する情報の一元的な提供、②生
涯学習に関する相談の総合的な
窓口（以上は住民に対しては、
が、施設間にあつては）、③各施
設の教育事業の共同企画・運営
の橋渡し、④教材・教具や指導
者等の交流や補完の仲介、⑤各
施設の有効活用方策（例えば合
同広報）等を行う。このような
学習サービスセンターとして
は、従来から市町村にあつて総
合的な社会教育施設としてま
ちづくりを進めてきた公民館、と
りわけ中央公民館がその任に当
ることが最も適切であろう。こ
のことを踏まえて示されたのが
「基本構想」にある「市町村の
生涯教育推進図」である。

市町村の生涯教育推進図 (例示)



加 茂 市 公 民 館

実践記録シリーズ

(32)

若者の輪を大きく

ある公運審委員の関わり

公運審委員という
と、公民館職員にとっ
ては、とかく煙たい存
在のような印象を持た
れやすい。ところが、
ここに、職員の相談相
手になりつつ、自から、
青年対象のイベントの
推進役となつてい
る人がいる。

加茂市の公運審委員の一人、
齊藤正氏(二号委員)は、市の



スタート風景

若者たちと公民館との距離を縮めるため、自から青年セミナーの運営委員として、イベントを結束させ、五回目を迎えている。去る三月二十六日に実施された「エコラン・フェスティバル5周年記念大会」の様子を紹介してもらった。

県央に位置する人口三万六千人余の加茂市は、緑多い加茂山を市街地に抱き、加茂川が町並みを洗うように流れ、穏やかなたたずまいを呈している。

古来、文教の香り高い地であり、住民の学習意欲は旺盛なのだ。若者については、問題があった。

ご多分にもれず、当市も若者を対象とした様々な講座等が実施されてきていたが、参加者が特定化する傾向は否めず、仲間の輪をより大きく広げるための方策が求められていた。

そんな中、青年セミナーの運営委員(十人)たちが、公民館で話しあいでだけでは足りずに

喫茶店でのコーヒーを傍らに、好き勝手なおしゃべりをしつつ芽吹いていったのがこのイベントであった。今から四年前のことである。

「若者をたくさん集めるイベントにしたい。そのためには楽しいものでなければならぬ。若者を楽しませるには、企画の段階から、運営委員自から楽しむなければならない。楽しさを伝えることができない。説得力を持つことはできない」という発想で会議が続けられた。

夜七時、公民館での相談は二時間、そのあとは、喫茶店へ席を移して、自から興に乗りつつアイデアを加えていく、といった集いが週に一回、時には二回と続けられた。

運営委員のメンバーはたまたま車好きだったことから、自然に「車」のこと、「旅」のことが話題に上り、車でのイベントへと夢が膨らんでいった。

まず、青年セミナーで「旅」や「車」に関する学習を年間数



学習中のスタッフ

回にわたって実施する。その総括として、「エコラン」を実施しようという構想が結実していった。

この「エコラン」とは「省燃費走行」を示すエコノミー・ランの略称であり、本来一定量の燃料でどれくらい走れるかというものの。しかし、参加者が持ち込む多種多様の車を同じ土俵で競わせるために、ひと工夫され、スタート時に予想燃費を申告してもらうことにした。これで、記号化されたコース図に従って走行後、計測算出された燃費との差異の少なさを競うという方式が採られ、車の大小にも関係無く競技できることになった。

また、スターターに「ミス雪橇」を配して彩りを添え、優勝チームへの賞は「露天風呂温泉ペア宿泊券」とうたつたり(実際には旅行クーポン券)と、同世代の若者へアピールできる企画が見事に練りあげられていった。

ポスターやチラシも分担で作られ、若者が集まる場や企業への直接のPRも手分けをして行なわれた。

第一回エコランは、昭和61年3月に若者のみならず、熱年チームや家族総ぐるみでの参加など幅広い人々に支持されたのスタートとなった。ゼッケンを誇らしげに貼った車が30数台揃った様はまさに壮観。

以来、春到来の喜びを体感しつつ仲間の輪を広げるイベントとして続けられ、携わる若者のエネルギーとノウハウとが、他の青年セミナーの企画運営にも「楽しさを添えよう」を合言葉に、大いに活かされている昨今である。

今後更に、他地域の若者達との交流ができるイベントに育てていってほしいと願っている。

加茂市公民館運営審議委員

齊藤 正記

公民館調査まとめ

連携事業の実施状況
公民館等複合・併設施設

社団法人全国公民館連合会

全国公民館連合会から、このほど「連携事業の実施状況、公民館等複合・併設施設」という調査報告書が惠贈された。

例年、全公連では、専門委員会を構成し、各種の調査活動を実施しているところであるが、昭和63年度は、「生涯学習推進のための連携事業及び、施設状況についての公民館調査」について実施したものである。

その趣旨は、地域における各種施設の進捗や、広汎な分野の生涯学習関連事業の増加などにより、これからは、地域の施設間の協力によるネットワークが従来以上に形成・強化されることとが望ましいとの考えにより、

公民館と他の施設との複合・併設の状況、公民館と他施設・他行政等との連携事業の実情を調査したものである。

調査票は、様式1・様式2からなり、様式1では、公民館が他の社会教育施設(他の公民館、図書館、博物館、体育施設等)、学校、行政部局・施設(福祉施設、保健所など)、民間教育施設や企業と連携して実施した事業の実例についてである。調査項目は、①連携事業の名称、②連携先の施設、③連携事業の概要、④評価、の四項目である。調査票様式2では、複合・併設の施設(駅・ショッピングセンター・庁舎などの一部をテナントとして借用したり、買い上げたものを含む)を対象とした実態調査で、項目は、①設置形態、②利点、③問題点、④住民の評価、の四項目で構成されている。

調査対象となった公民館は、各都道府県公連に所属する市町村立

公民館の中から、他施設等と連携事業を行っている公民館、複合・併設の公民館を抽出したもので、調査の期間は、昭和63年11月30日から12月20日まで実施されたものである。

本報告書の特徴は、数量的にまとめたものではなく、調査結果をほぼそのままの形でまとめられている。今後更に分析・検討をする予定であるという。したがって「連携事業」分野は22ページにわたり、「複合・併設」分野は59ページにわたり、事業実施の詳細が記載されており、実践事例集としても役立つ資料である。

ちなみに、本県からは、「連携事業」の分野では、十日町市公民館、新井市公民館が、「複合・併設施設」の分野では新発田市文化会館・公民館、燕市総合文化センターの二施設が調査に協力している。

体裁はB5判 273頁。
なお、若干の残部がある由なので、希望する向きは、送料実費(三十円：切手でも可)を添えて左記へ申し込みませう。
〒105 東京都港区虎ノ門一丁目一七
視聴覚ビル9F
全国公民館連合会事務局宛

越路町公民館主事

安藤 正芳氏 (35歳)

総務課企画係から公民館に移って一年という安藤氏。落ち着いた言動の中に深い洞察力を持った人という印象が強い。

「前の職場と違うところは？」

「これまでは、町の総合計画を立てる仕事でしたから、広い視野と将来を見とおすことが必要でした。」

「大きな見方をしなければならぬわけですね。」



素顔拝見

湯東村公民館主事

坂井 真澄さん (34歳)

「ご苦労さまです」
女関で待っていたら、若々しい元気な声でやってきた。

印刷室へ行ったり、電話連絡をする姿を見て、同じ公民館職員として、大変うれしくなった。

よく動くのです。
「腰が軽い」と言う浮気性のように聞えそうですが、そうではなく、次への行動がすばやいのです。

そして「声」もいのです。
それもそのはず、役場に入る前は、農協で有線放送のウグイス嬢を八年も担当していたと言

「また、コミュニケーションセンターという箱物の配置という仕事にも携わってきました。今、そのセンターをどう活用するか……というソフト面の仕事です。とりわけ人間を相手にした仕事にとまどいを感じました」

「今年の抱負は？」

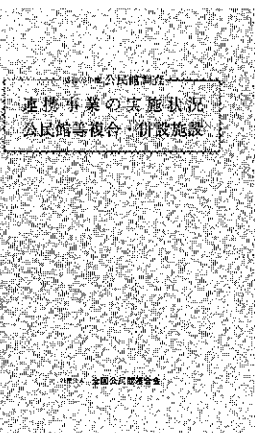
「一年目は、何も分らずに、先輩の敷いた路線を夢中で走ってきたのですが、今年の仕事は自分でたてたもの。正念場としてがんばらなければ……」と力強い返事が返ってきた。

(上村記)

その間、有線放送アナウンスコンクール県大会で、六回も優勝し、全国大会では、六位に入賞したこともある。

高校時代に、登山部で鍛えた体力を武器に、現在、庶務係のほかに婦人会やレク講習などをテキパキとこなすスーパーウーマンである。

長男は、小学一年生。家族も大切にして、活躍してほしい。
(村上市中央公民館 社会教育主事 田嶋 雄洋記)





エレキテルショー

—ふしぎな静電気—

いま、新潟県立自然科学館では、「エレキテルショー」が人気を呼んでいます。

・静電気ってなんだらう？

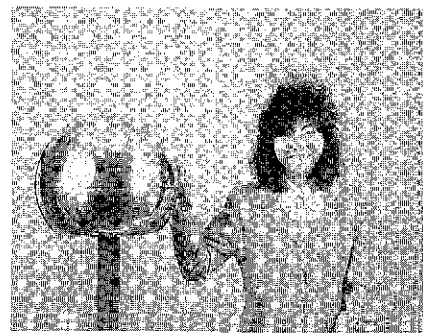
・電気ボールはなぜ振動するの？

・ハミルトンの風車はなぜ回る？

・エレキテル・ケージはなぜ感電しない？

・電気マンの髪はなぜ逆立つの？

など、実演・実験も加えて、楽しく、面白く学べる企画がいっぱい。公民館の児童対象事業や子ども会事業の計画に加えたらいかがですか。



髪の毛はなぜ逆立つの？

推薦図書



現代公民館全書

湯上二郎 加藤雅晴 坂本登也 野島正也 編著

東京書籍

公民館は、生涯学習時代のけん引者として、コミュニティづくり、青少年育成、生涯学習社会の基盤形成などに中心的役割を果たすことが期待されている。本書は、公民館が、地域性を生かしながら、多様なニーズや新しいサービス要求に広げて、地域住民の学習を幅広く援助する方法や独自性を確立していく方途などについて具体的に追求している。内容は、序章「生涯教育の展開と公民館」

公民館は、生涯学習時代のけん引者として、コミュニティづくり、青少年育成、生涯学習社会の基盤形成などに中心的役割を果たすことが期待されている。本書は、公民館が、地域性を生かしながら、多様なニーズや新しいサービス要求に広げて、地域住民の学習を幅広く援助する方法や独自性を確立していく方途などについて具体的に追求している。内容は、序章「生涯教育の展開と公民館」

資料紹介

- 昭和63年度一年間の事業のまとめの資料が、県教育委員会をはじめ、市町村からも多数ご恵贈いただきました。
- お礼をこめて、ここに紹介させていただきます。
- 新潟県生涯教育ガイドブック
 - 特色ある事業編—
 - 子供の自立を促す親のあり方
 - 1・2の3ちゃん
- 昭和63年度家庭教育相談事業—
- 同和教育の実践—第3集—
- 高等学校開放講座
- 実施概況報告書—
- 婦人学習
- 以上県教育委員会
- 行政機関の連携・協力体制の整備について
- 新潟県生涯教育推進会議
- 上越の社会教育
- 県教育庁上越教育事務所
- 社会教育研究紀要—第21集—
- 上越地区社会教育委員連絡協議会、上越地区社会教育主事会
- 社会教育研究紀要—第5集—
- テトラポット—
- 下越地区社会教育主事会
- 文芸にいがた—第八集—
- にはじまり、第一部から七部にわたり、公民館の歴史・制度・施設・組織と運営・事業と運営・事業の実践・21世紀への展望と可能性・附章に主要文献解題参考資料と、公民館に関する殆んどの内容が網羅され、平易な文で分かり易い。
- なお、実践篇には、新潟市中央公民館の事例も載っている。
- (B5判、本文576頁、平成元年5月18日発行 定価三、000円お求めは最寄り書店で)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下清

編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部120円 年共・年極1,440円】

新潟市中央公民館
○文芸みつけ —第9集—
見附市文芸協会

○文芸せいろ —第5号—
聖籠町公民館

○子ども会のあゆみ
—創立10周年記念誌—
新潟市子ども会連絡協議会

○わたしたちの学習
—十日町青年学級学習帳No.16—

○炎
以上十日町市公民館

あとがき

◆県公民館大会があと数日後に迫りました。40回目を記念するお祭りのな性格を若干加味しています。気軽に参加してください。

◆まだ申し込みを済ませていない向きは早日にどうぞ。主管の長岡市中央公民館関係者の事務軽減にご協力ください。(上村記)